

税に支えられて

気仙沼市立気仙沼中学校3年 千葉 天晴

私が今こうして毎日を楽しく平和に過ごせているのはたくさんの人達の納税した税金のおかげなのです。

今から九年前の三月十一日東日本を襲った大震災の津波で私の家も家族で営んでいた店も流されてしまいました。そのため私達家族は避難所での生活を送ることになりました。一番上の姉がちょうど今の私と同じ年のことでした。たくさんの人であふれかえっている中でも姉は黙々と勉強していました。そんな姿をみた市の職員さんは姉や他の学生さんのため勉強スペースを作ってくれました。また中学校の先生も毎日のように避難所に足を運んでくれて姉に本や衣類など差し入れしてくれました。姉は今でもそのことに大変感謝し、その時のことが自分の夢を叶える力になったと私に話してくれました。私にとってもその時の姉の姿がずっと勉強に向き合うための力になりました。避難所を運営してくれた市の職員さん、先生方、そして学校も税金でまかなわれていると少し大きくなってから知り、その時税金の大切さそしてありがたさをととても感じました。また税金からの援助により姉や私達は学ぶことを止めないで毎日を送ることが出来ました。本当に感謝しています。

私にはもっと税金の大切さを知る機会がありました。それは一緒に暮らしていた祖母が震災から半年後百万人に一人という難病になり、そしてさらにその半年後残念なことに祖父までも五十万人に一人という難病になった時のことです。今思えば祖父も祖母も震災のショックが要因だったのかもしれませんが。震災後店の再建に頑張っていた両親は祖父母の看病をしながら仕事をしていました。私を保育園そして学童に預け、迎えに来た帰りに毎日私も一緒に病院に面会に行くという生活を何年もしていました。そんな大変な生活の中でも両親は、「じいちゃんもばあちゃんも税金のおかげでこうしてとてもよい治療を受けられるのだよ。」と私にいつも話してくれました。難病医療費助成制度により治療費や薬の費用を助成してくれるのだそうです。そのおかげで最先端の医療を受けることができ余命よりずいぶん長く生きていてくれて、私も祖父母との思い出をたくさん作ることが出来ました。

私たち家族は色んな困難にあっても、たくさんの人たちの大切な税金に支えられ前に進むことが出来ました。震災から間もなく十年になります。復興していく街並みや、新しくできた橋を見ながら毎日学校に通学しています。この日常が送れるのもたくさんの人たちの税金のおかげです。このことに感謝の気持ちを忘れずに、いつかは私が困っている人の支える力になれるように毎日大切に過ごしたいと思います。人は税によって支え合って生きているから。